資料編

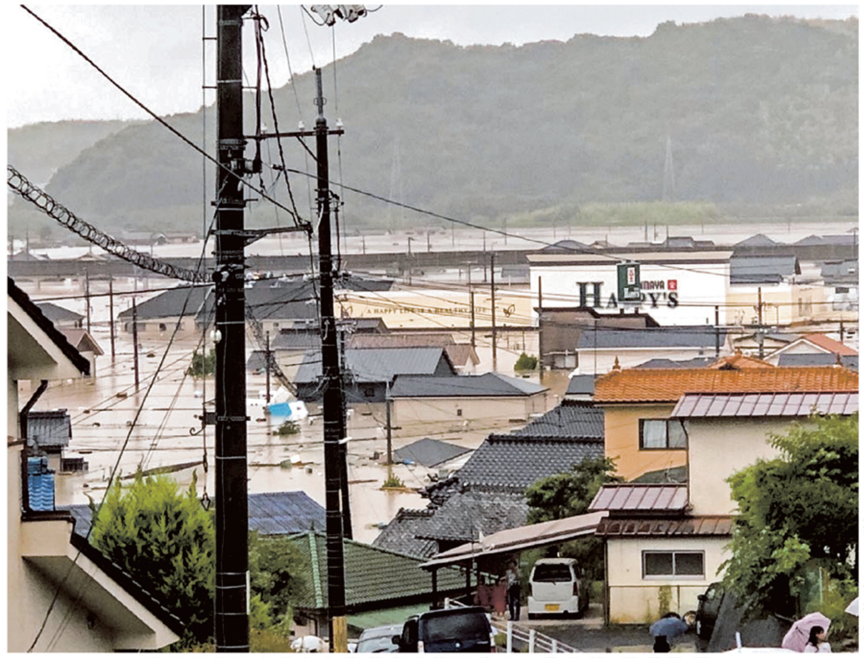
新聞記事

岡山大雨 甚大被害

1人死亡7人不明

小田川決壊、家屋浸水

全国50人超不明



川の氾濫で水没した倉敷市真備町地区＝7日朝（住民提供）

西日本を中心に7日、記録的大雨で土砂崩れや水害が相次ぎ、5日以降、共同通信のまとめでは広島県で9人、愛媛県で3人、大阪府と滋賀、兵庫、岡山各県で各1人の計16人が死亡した。安否不明者は50人を超え、京都府で1人が心肺停止。人や車、住宅の被害がさらに広がる恐れがある。菅義偉官房長官は7日、救助が必要な事案を100件以上把握し、警察、消防、自衛隊が約4万8千人態勢で捜索救助活動をしていると語った。（2、3面に関連記事）

岡山県では土砂崩れで住民と連絡が取れなくなったほか、川の決壊、増水などで人や車が流されたとの通報が相次いだ。県や消防によると午前11時現在、1人が死亡、7人が行方不明。各地で取り残された人が多数おり、警察や消防、自衛隊が捜索や救助に向かっている。被害はさらに拡大する恐れがある。

笠岡地区消防組合によると午前4時半ごろ、笠岡市の自動車部品メーカー・ヒルタ工業の工場に土砂が流入し、従業員6人が生き埋めになって1人が死亡、1人が行方不明となった。井原、高梁市や矢掛町では家屋に土砂が流入し、住民3人の安否が分かっていない。総社市消防本部によると6日午後11時ごろ、JR日羽駅付近で冠水した国道180号に14人が一時取り残され、うち2人が行方不明になった。

県などによると、倉敷市真備町地区の小田川、高馬川、岡山市東区の砂川が決壊。倉敷市真備町箭田では広範囲が浸水し、建物2階近くまで水が押し寄せた。家屋が流されたほか、老人ホーム屋上や住宅に約20人が取り残されている。

県のまとめでは、住宅の損壊、床上・床下浸水が相次ぎ、約13万1900世帯の約30万人に避難指示・勧告が発令され、26市町村の365カ所に避難所が設置された。道路関係では土砂崩れなどで160路線が全面通行止めとなった。

交通機関では、JR在来線は県内を走る全線で運転を終日取りやめ、山陽新幹線は新大阪―小倉間で始発から運転を見合わせた。高速道は山陽、岡山、中国自動車道とも県内区間は全線通行止めとなった。

各地で大雨の影響とみられる停電が相次ぎ、中国電力岡山支社によると7日午前11時現在、復旧分を含め高梁、総社市などの延べ約4万5600戸に上った。

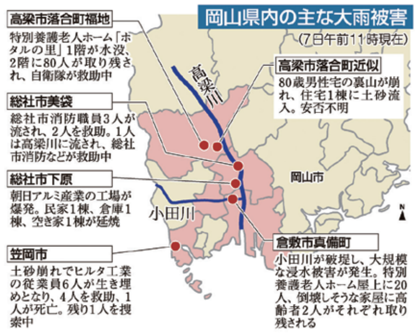
岡山地方気象台が7日午前11時までにまとめた48時間雨量は、岡山県鏡野町富416・0ミリ▽真庭市久世400・5ミリ▽新見市新見392・5ミリ▽笠岡市335・5ミリ▽岡山市307・0ミリ▽倉敷市260・0ミリ―に達し、全25観測地点のうち20地点で観測史上最大を記録した。8日午前6時までの24時間雨量は多い所で北部200ミリ、南部150ミリと予想している。

さんデジに動画

岡山県内の被害

人的被害と電気は7日午前11時現在、他は同5時現在

人的被害	死者	1人
	行方不明	7人
	重傷	0人
	軽傷	0人
住宅被害	全壊	3棟（高梁市2、井原市1）
	半壊	0棟
	床上浸水	2棟（鏡野町、瀬戸内市）
	床下浸水	26棟（津山市5、真庭市2、新見市5、鏡野町7、美咲町3、美作市2、和気町1、瀬戸内市1）
避難	避難指示	66473世帯（154388人）
	避難所開設	365
電気	停電	45600棟



岡山県内の主な大雨被害

（7日午前11時現在）

高梁市落合町福地
特別養護老人ホーム「ホタルの里」1階が水没、2階に80人が取り残され、自衛隊が救助中
高梁市落合町近似
80歳男性宅の裏山が崩れ、住宅1棟に土砂流入。安否不明
総社市美袋
総社市消防職員3人が流され、2人を救助。1人は高梁川に流され、総社市消防などが救助中
総社市下原
朝日アルミ産業の工場が爆発。民家1棟、倉庫1棟、空き家1棟が延焼
笠岡市
土砂崩れでヒルタ工業の従業員6人が生き埋めとなり、4人を救助、1人が死亡。残り1人を捜索中
倉敷市真備町
小田川が破堤し、大規模な浸水被害が発生。特別養護老人ホーム屋上に20人、倒壊しそうな家屋に高齢者2人がそれぞれ取り残される
高梁川
小田川
岡山市
N

周辺3棟全焼 十数人けがか

総社・工場爆発

6日深夜に起きた総社市の工場爆発は7日午前10時現在、周辺の民家などに延焼したものの、鎮圧状態となった。当時、工場は無人だったが、付近の住民十数人が軽傷を負ったもよう。2次爆発や大雨による冠水の危険性があるため、警察や消防も近づけず、被害の詳細を確認できない状況が続いている。

岡山県警や総社市消防本部などによると、6日午後11時35分ごろ、同市下原、「朝日アルミ産業」岡山工場で爆発があり、火災が発生。周辺の民家や車庫計3棟が全焼、爆風で民家や店舗の窓ガラスが割れるなどした。当時、高梁川沿いの現場周辺は冠水。県警などは、アルミニウムを溶解する工場の炉に水が流れ込んで化学反応を起こした可能性があるとみて、詳しい原因を調べる。

一夜明けても煙をあげてくすぶる工場＝7日午前7時57分、総社市下原

親会社のアサヒセイレン（大阪府）などによると、工場は普段、アルミニウム地金を生産するため、24時間体制で溶解炉を運転。6日は午前中から大雨に備えて炉の停止作業を進め、午後10時ごろに従業員は全員退社。爆発当時は無人だったという。同社の担当者は「多大な迷惑をお掛けして申し訳ない。原因を調査中で、再発防止に全力を尽くしたい」とコメントした。

現場はJR総社駅から南西約2・5キロ。県によると、岡山市中心部や高梁市などでも爆発音と振動が確認された。工場近くの女性(68)は「ドーンというごう音とともに窓ガラスが割れ、ふすまや物置が倒れた。地震のような衝撃。家の何もかもがむちゃくちゃで、これからどうなることか」と声を震わせた。

平成30年7月7日（土）山陽新聞夕刊紙面

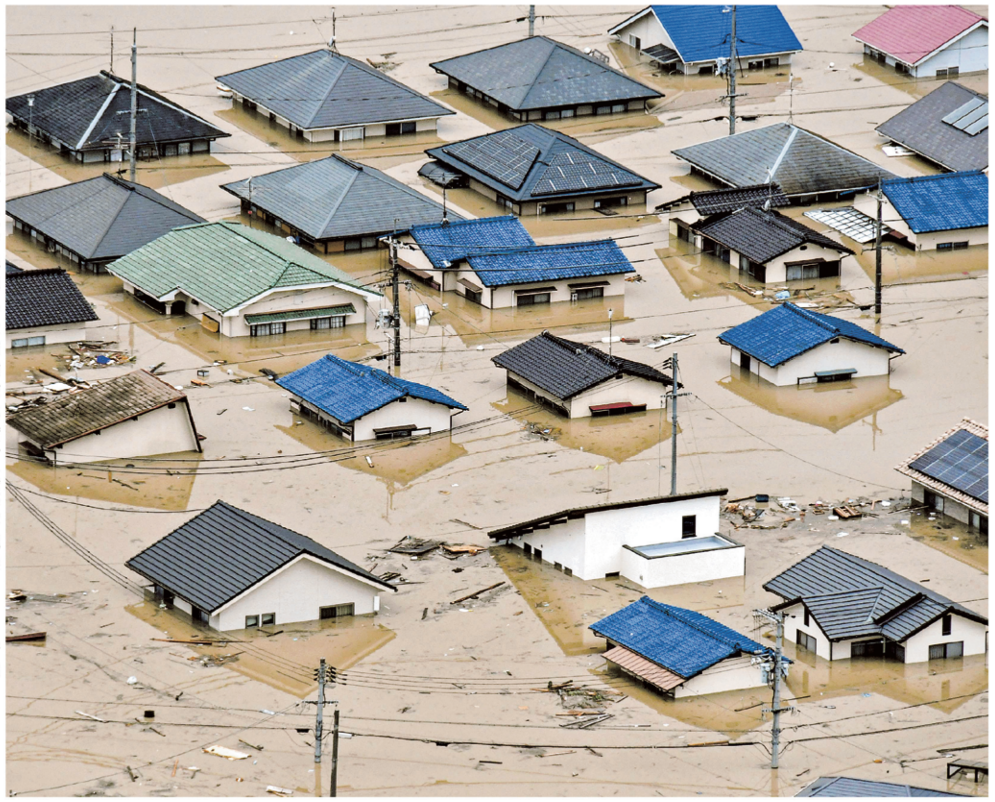
岡山豪雨3人死亡

9河川決壊 6人不明

倉敷・真備 濁流 民家のむ

広島23人死亡

全国51人死亡



屋根近くまで冠水した倉敷市真備町地区の住宅＝7日午後

西日本を中心に7日、活発な梅雨前線による豪雨被害が拡大し、5日以降の共同通信の各府県まとめで、広島23人、愛媛18人、山口3人、岡山3人、滋賀、大阪、兵庫、福岡で各1人が死亡、死者は計51人となった。心肺停止状態の人も相次ぎ、安否不明者は約50人。一部住民は孤立、被害拡大の恐れがある。

岡山県では九つの河川が決壊し、西部を中心に住宅が濁流にのまれ、人や車が流されたとの通報が相次いだ。県や消防によると午後9時半現在、3人が死亡、6人が行方不明、7人が重軽傷を負った。小田川が決壊した倉敷市真備町地区では住民が取り残された家屋が多数水没し、被害はさらに広がる可能性がある。

県は6日午後、災害対策本部を設置。伊原木隆太知事が陸上自衛隊に災害派遣を要請した。

県や各消防によると7日午前4時半ごろ、笠岡市の自動車部品メーカー「ヒルタ工業」の工場に土砂が流入し、男性従業員6人が生き埋めになって2人が死亡。井原市では6日午後10時半ごろ、家屋に土砂が流れ込み、住人の女性(48)が亡くなった。総社市のJR日羽駅付近では同日午後11時ごろ、冠水した国道180号に17人が孤立し、うち男性2人が行方不明に。同市と新見、高梁市、鏡野町では男性計4人の行方が分からなくなっている。

倉敷市真備町地区は広範囲で家屋が浸水し、多くの住民が取り残された。住宅の屋根などから救助を求める人が相次ぎ、7日午後5時までに390人が救助された。警察と消防、自衛隊が夜を徹して活動を続けている。

県のまとめでは、被害の全容が把握できていない倉敷市などを除き住宅の全半壊・一部損壊は計21棟、床上・床下浸水は488棟に上った。決壊したのは小田川のほか、旭川、砂川、高馬川、鴨方川、末政川、今立川、高屋川、尾坂川の8河川。道路は土砂崩れなどのため184カ所で全面通行止めとなっている。午後9時半時点の避難指示・勧告は約40万9300世帯約91万700人、避難所は23市町村の379カ所。

岡山地方気象台によると、5日午前2時の降り始めから7日午後3時までの総雨量は津山市421・0ミリ、岡山市310・0ミリ。いずれも平年1年間に降る雨の量のほぼ3割に達した。岡山県の大雨特別警報は7日午後、解除した。

さんデジに動画

岡山県内の被害

7日午後9時半現在

人的被害	死者	3人
	行方不明	6人
	重傷	1人
	軽傷	6人
住宅被害	全壊	6棟（高梁市2、新見市2、津山市1、矢掛町1）
	半壊	3棟（井原市2、岡山市1）
	一部損壊	9棟（瀬戸内市4、鏡野町3、倉敷市1、津山市1）
	床上浸水	261棟（岡山市230、和気町21、美作市6、備前市2など）
	床下浸水	227棟（岡山市128、美作市54、早島町7、新見市6など）
避難	避難指示	357,924世帯（791,508人）
	避難所開設	379カ所
水道	断水	20,241戸（倉敷市10,050、高梁市6,775など）
	仮復旧	110戸（新見市104、津山市6）
電気	停電	2,854棟

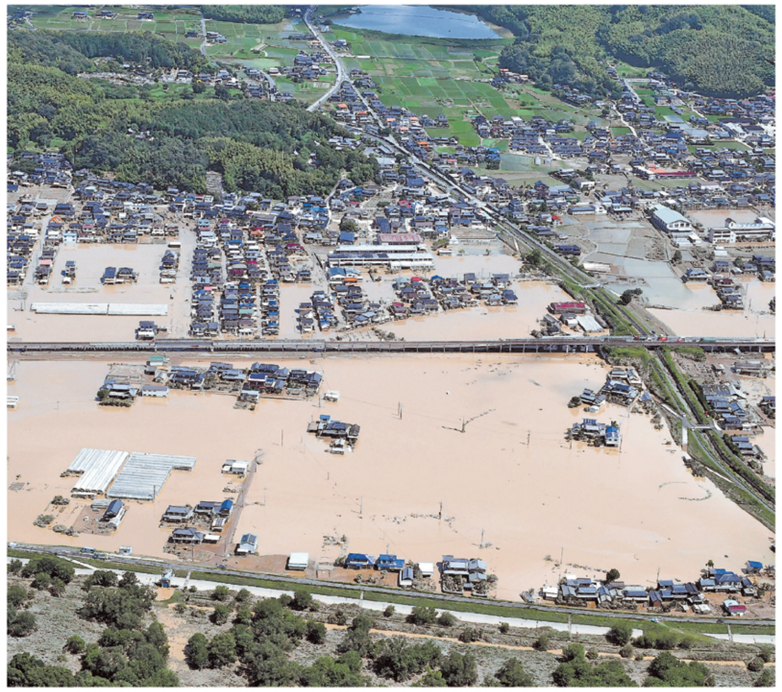
平成30年7月8日（日）山陽新聞朝刊紙面

岡山 死者16人に

西日本豪雨

新たに13人遺体発見

真備11人、笠岡と総社1人



水は引きつつあるものの、依然として広範囲が冠水している倉敷市真備町地区－9日午前10時8分

河川の氾濫や土砂流入などで岡山県内各地で被害が相次いでいる豪雨災害で、県内では9日午前11時半までに、新たに13人の遺体が見つかった。小田川の決壊で中心部が水没した倉敷市真備町地区で男女11人、笠岡、総社市内で男性各1人を発見。いずれも豪雨災害の被害者とみられ、身元の確認を急いでいる。県内の死者は16人となった。行方不明者は7人。浸水地域では水が引き始めており、被害の状況が徐々に明らかになってきている。（2、3面に関連記事）

各自治体などによると、倉敷市真備町地区では水没した複数の家屋から男性4人、女性7人が発見され、多くが高齢者とみられる。

県の災害対策本部などによると、同地区では一時、地区全域の約27%に当たる約1200㌶が浸水し、推計で約4千戸が被災したとみられる。水かさは建物の2階付近まで達し、屋根などから救助を求める人が相次いだ。9日午前7時半までに約2400人を救出し、まび記念病院（同市真備町川辺）では患者ら約300人が孤立状態となったが、同日未明に全員助け出されたという。

小田川の堤防工事は7日夜から始まり、ポンプによる排水作業などに取り組んでいる。

同地区以外では約300人を救助。引き続き、消防や警察、自衛隊が活動を続けている。また、県内で約2万500戸が断水しており、給水所を設けるなどして対応している。

県の9日午前8時現在のまとめでは、被害の全容が把握できていない倉敷市などを除き、住宅の全半壊・一部損壊は計27棟、床上・床下浸水は約1220棟。約2万6千世帯の約5万7700人に避難指示が出されており、避難所は15市町村の126カ所。道路は土砂崩れなどのため148カ所で全面通行止めとなっている。

岡山県内の被害

9日午前8時現在（死者は同11時半現在）
※住宅被害は全容を把握できていない倉敷市などを除く

人的被害	死者	16人
	行方不明	7人
	重傷	1人
	重軽傷不明	4人
	軽傷	6人
住宅被害	全壊	10棟（高梁市4、新見市3、津山市1、玉野市1、鏡野町1）
	半壊	6棟（玉野市2、井原市2、岡山市1、矢掛町1）
	部分焼	1棟（総社市）
	一部損壊	11棟（瀬戸内市3、鏡野町3、倉敷市1、玉野市1など）
	床上浸水	約500棟（岡山市約250、矢掛町約200、和気町24など）
	床下浸水	約720棟（矢掛町約400、岡山市189、美作市62など）
避難	避難指示	26,084世帯（57,756人）
	避難所開設	126カ所
水道	断水	20,538戸（倉敷市10,050、高梁市7,071など）
	仮復旧	650戸（新見市644、津山市6）
電気	停電	1,964棟（倉敷市1,700、新見市240など）

岡山県内の死者・行方不明者数

豪雨災害による岡山県内の市町村別の死者・行方不明者数

【死亡】倉敷市（真備町地区）11人▽笠岡市3人▽総社市1人▽井原市1人

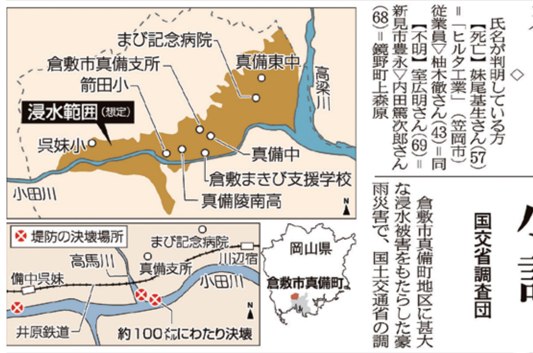
【不明】総社市3人▽倉敷市（真備町地区）1人▽高梁市1人▽新見市1人▽鏡野町1人

◇

氏名が判明している方

【死亡】妹尾基生さん（57）＝「ヒルタ工業」（笠岡市）従業員▽柚木徹さん（43）＝同

【不明】室広明さん（69）＝新見市豊永▽内田篤次郎さん（68）＝鏡野町上森原



小田、高馬川 計3ヵ所決壊

「想定超えた水位」

国交省調査団

倉敷市真備町地区に甚大な浸水被害をもたらした豪雨災害で、国土交通省の調査団は8日、地区内を流れる小田川とその支線・高馬川の堤防が少なくとも計3カ所で決壊していることを確認した。うち1カ所は堤防が幅100㍍にわたって流失していた。

調査団の福島雅紀・国交省国土技術総合政策研究所河川研究室長は「堤防ができた当時に想定していた水位を超えた」と指摘。増水した水が堤防上部からあふれ、川の外側から堤防の土を削って崩壊させた可能性があるとみて、決壊の原因を詳しく調べる。

調査団によると、決壊したのは小田川のうち高梁川との合流地点から上流3・4㌔、6・4㌔地点の2カ所と、高馬川のうち3・4㌔地点付近への合流部。約100㍍にわたる堤防流失が見つかったのは小田川3・4㌔地点だった。水位については、決壊部分の両側に残る堤防上部の草が下流方向に倒れていたことなどから特定した。

調査は5人で約5時間行った。福島室長は、小田川では別にもう1カ所決壊しているとの情報を得ているとした上で「現地で見て被害の大きさに改めて驚かされた。この規模の河川で堤防の上部まで水が達することはめったになく、降雨がいかに激しかったかがうかがえる」と話した。

真備町地区は両河川の決壊などにより、最大で地区全域の約27%に当たる約1200㌶が水没した。

岡山豪雨義援金受け付け 8月10日締め切り

岡山豪雨で被災された方々への義援金を受け付けます。「岡山豪雨」と明記して山陽新聞本社、倉敷本社、各支社、山陽新聞社会事業団へ直接持参していただくか、現金書留、または郵便振替（01320－6－16518）で、〒700－8634岡山市北区柳町2－1－1、山陽新聞社会事業団へお送りください。手数料はご負担願います。物資の取り扱いはいたしません。

受付時間は土・日曜、祝日を除く午前10時から午後4時まで。8月10日で締め切ります。金額とお名前を紙面に掲載します。掲載を希望されない方は通信欄に「匿名希望」と明記してください。義援金は岡山県内の被災者の支援、救援活動に使われます。

山陽新聞社
山陽新聞社会事業団

……………

「岡山豪雨義援金」に次の通り寄付します

300万円　山陽新聞社

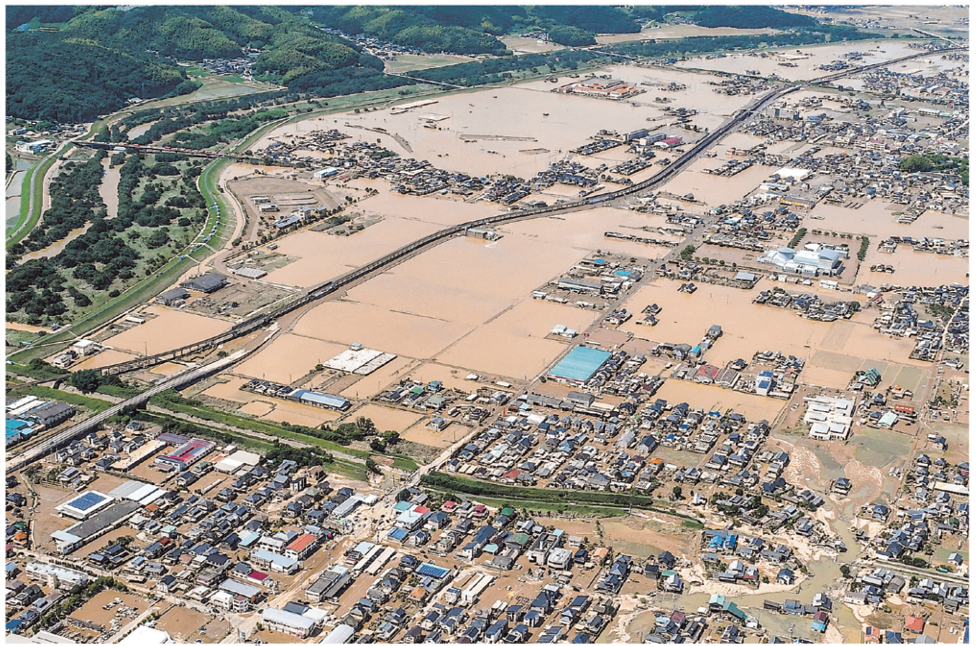
平成30年7月9日（月）山陽新聞夕刊紙面

岡山 死者36人に

西日本豪雨

戦後2番目、平成最多

新たに33遺体 不明5人



広範囲が浸水している倉敷市真備町地区。写真左側を流れているのが小田川＝9日午前10時19分

西日本豪雨で岡山県内では9日午後8時までに、新たに33人の遺体が見つかり、同県内の死者は計36人になった。県によると、風水害による犠牲者は79人が死亡した1945年9月の台風被害に次ぎ戦後2番目の多さで、平成では最多。少なくとも5人の行方不明者がおり、被害はさらに拡大する恐れがある。

新たに見つかったのは、小田川などの決壊により中心部が水没した倉敷市真備町地区で28人（男性12人、女性16人）、同地区以外の倉敷市と笠岡市で男性各1人、総社市で男性3人。いずれも豪雨災害の犠牲者とみられ、多くが高齢者となっている。

県の災害対策本部などによると、真備町地区では全体の約27%に当たる約1200㌶が浸水し、被災家屋は推計で約4600戸に上っている。水かさが建物の2階付近にまで達した所もあり、屋根などから救助を求める人が相次ぎ、9日午後8時までに約2400人を救出。まび記念病院（真備町川辺）では患者ら約300人が孤立状態となったが、同日、全員が助け出されたという。

小田川の堤防工事は7日夜から始まった。ポンプによる排水作業が進んだこともあり、浸水地区では水が徐々に引き始めている。

真備町地区以外で救助されたのは約300人。引き続き、消防や警察、自衛隊が県外からの応援も受けて活動を続けている。

県内では約2万1100戸が断水しており、給水所を設けるなどして対応している。

県は9日、国に激甚災害に指定するよう要望した。

県の9日午後8時現在のまとめでは、被害の全容が把握できていない倉敷市などを除き、住宅の全半壊・一部損壊は計31棟、床上・床下浸水は約1300棟。3757世帯8735人に避難指示が出されており、避難所は12市町の104カ所。道路は土砂崩れなどのため139カ所で全面通行止めとなっている。

さんデジに動画

岡山県内の被害

9日午後8時現在
※住宅被害は全容を把握できていない倉敷市などを除く

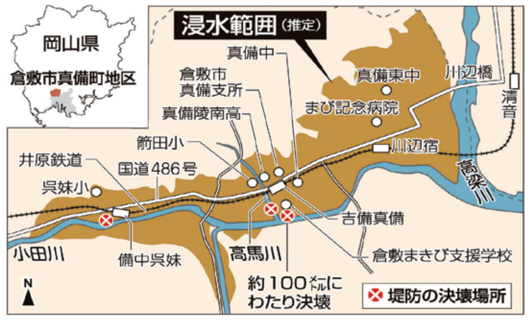
人的被害	死者	36人
	行方不明	5人
	重傷	1人
	重軽傷不明	4人
	軽傷	6人
住宅被害	全壊	13棟（高梁市4、津山市4、新見市3、玉野市1、鏡野町1）
	半壊	6棟（玉野市2、井原市2、岡山市1、矢掛町1）
	部分焼	1棟（総社市）
	一部損壊	12棟（瀬戸内市3、津山市3、真庭市2、倉敷市1、玉野市1など）
	床上浸水	約510棟（岡山市約250、矢掛町約200、和気町26など）
	床下浸水	約790棟（矢掛町約400、岡山市189、美作市81など）
避難	避難指示	3,757世帯（8,735人）
	避難所開設	104カ所
水道	断水	21,157戸（倉敷市10,050、高梁市7,071など）
電気	停電	1,964棟（倉敷市1700、新見市240など）

岡山県内の死者・行方不明者数

豪雨災害による岡山県内の市町村別の死者・行方不明者数

【死亡】倉敷市1人▽同市（真備町地区）28人▽笠岡市3人▽総社市3人▽井原市1人

【不明】総社市1人▽倉敷市（真備町地区）1人▽高梁市1人▽新見市1人▽鏡野町1人



奪われた日常

倉敷・真備

9日午前、倉敷市真備町地区の上空を飛んだ。川の堤防はえぐり取られ、いまだ広範囲が浸水。町をのみこんだ水害の爪痕が深く大きく刻まれていた。

水が残っているのは、地区を横断する井原鉄道の南側を中心としたエリア。道路は至る所で寸断され、田んぼの苗は泥水に覆われている。倉敷まきび支援学校は四方が水没し、孤立した状態だ。

幅100㍍にわたって決壊した小田川の堤防は激しく崩れ落ち、その上流や支川の高馬川でも決壊箇所が無残な姿をさらしている。

水が引いた場所では、民家や住宅の屋根に浸水の跡が残り、泥まみれになった道路を車が走る。泥と水で一面茶色になった町では、平穏な日常の風景は奪われていた。（柏谷和宏）

さんデジに動画

12府県で死者126人

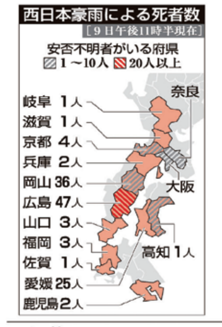
広島47人

活発な梅雨前線による西日本豪雨は9日までに各地で被害が拡大し、死者は12府県計126人に上った。安否不明者は6府県86人になった。中国・四国地方を中心とした被災地では厳しい暑さの中、救助や捜索が続いた。気象庁は大雨特別警報を全て解除したが、引き続き土砂災害や河川氾濫への警戒を呼び掛けた。総務省消防庁によると、9日午後5時半時点で15府県の避難所に計約1万1千人が身を寄せた。

死者・行方不明者299人を出した1982年の長崎大水害に次ぐ被害で、平成で最悪となった。政府は8日、非常災害対策本部を設置。安倍晋三首相は9日午前の会合で「（警察や自衛隊などの）実動部隊を7万3千人に増強し、全力で救命救助に当たっている」と述べた。

8日以降も各地で死者を確認した。広島県では、熊野町川角の住宅地で土砂崩れに巻き込まれて12人が安否不明になり、住人とみられる遺体が、福山市ではため池決壊で家ごと流された女児（3）の遺体が見つかった。愛媛県宇和島市で土砂崩れにより住宅で生き埋めとなった男性（63）と、高知県大月町で裏山が崩れ住宅が倒壊した女性（58）も死亡した。

死者は岡山36人、広島47人、愛媛25人、京都4人、山口、福岡各3人、兵庫、鹿児島各2人、岐阜、滋賀、高知、佐賀各1人。



平成30年7月10日（火）山陽新聞朝刊紙面

岡山豪雨死者54人

倉敷・真備 新たに18遺体

5歳女児も犠牲

西日本豪雨による甚大な被害が出ている岡山県内で10日午後8時までに、5歳女児1人を含む18人の遺体が新たに見つかった。県によると、いずれも全面積の3割が水没した倉敷市真備町地区で発見。県内の死者は計54人になった。少なくとも総社、高梁など5市町で5人の行方不明者がおり、さらなる被害拡大が懸念される。

同地区ではこの日、自衛隊、消防、警察などが約千人態勢で朝から行方不明者の捜索を再開。水が引かず、ほぼ手つかずだった小田川北岸沿いの住宅地を中心に一軒一軒声を掛けながら、ローラー作戦で安否確認をした。全国からボランティアで集まった災害救助犬6匹も初出動した。

18人は男性7人、女性11人。同地区で見つかった死者は46人に上り、年齢が確認できた34人のうち30人は65歳以上の高齢者。

同地区以外の県内の被害では、高梁市の女性(83)が土砂流入による家屋倒壊で腕や足を骨折する重傷を負っていたことも判明。住宅被害では、岡山市で床上・床下浸水が計約7630棟と、9日までの判明分より約7190棟増えた。総社市では全壊7棟、半壊7棟などが加わった。

一方、危険は収まりつつあるとして自治体による避難所の閉鎖は進み、避難所数は10日午後8時現在で10市町59カ所と9日夜から半減した。それでも、いまだに避難所に残る被災者は約3900人に上る。

県全体では、被害の全容が把握できていない倉敷市などを除き、住宅の全半壊・一部損壊は計78棟、床上・床下浸水は約9600棟。3757世帯8735人に避難指示が出されている。土砂崩れなどによる道路の全面通行止めは133カ所。

濁流にのまれた地域で行方不明者を捜索する自衛隊員＝10日午後2時50分、倉敷市真備町箭田

岡山県内の被害

10日午後8時現在
※住宅被害は全容を把握できていない倉敷市などを除く

人的被害	死者	54人
	行方不明	5人
	重傷	2人
	重軽傷不明	4人
	軽傷	9人
住宅被害	全壊	22棟（総社市7、高梁市4、津山市3、新見市3、玉野市2など）
	半壊	14棟（総社市7、玉野市3、井原市2、岡山市1、矢掛町1）
	部分焼	1棟（総社市）
	一部損壊	42棟（総社市17、津山市7、岡山市3、瀬戸内市3など）
	床上浸水	約4,200棟（岡山市約3,260、総社市約600、矢掛町約200など）
	床下浸水	約5,400棟（岡山市約4,370、矢掛町約400、総社市約370など）
避難	避難指示	3,757世帯（8,735人）
	避難所開設	59カ所
水道	断水	約20,000戸（倉敷市8,900、高梁市7,071など）
電気	停電	94棟（倉敷市90、岡山市4）

岡山県内市町村別死者・行方不明者数

【死亡】倉敷市1人▽同市（真備町地区）46人▽笠岡市3人▽総社市3人▽井原市1人

【不明】総社市1人▽倉敷市（真備町地区）1人▽高梁市1人▽新見市1人▽鏡野町1人

◇

氏名が判明している方

【死亡】妹尾基生さん(57)＝「ヒルタ工業」（笠岡市）従業員▽柚木徹さん(43)＝同▽亀山将さん(81)＝総社市下倉▽藤井敦子さん(48)＝井原市西江原町

【不明】室広明さん(69)＝新見市豊永▽内田篤次郎さん(68)＝鏡野町上森原

西日本豪雨

12府県 死者157人に

広島58人 捜索続く

西日本豪雨の被災地では10日、死者が12府県で計157人に上った。広島、岡山両県で半数以上。依然56人が安否不明だ。総務省消防庁によると、同日午後1時の時点で15府県の計1万人超が避難。気温は各地で30度を超え、関係機関による捜索や被災者を取り巻く状況は過酷さを増している。

川の堤防が決壊し浸水した倉敷市真備町地区では、水が引いたことで捜索が進んだ。陸上自衛隊による仮設風呂も開設された。倉敷市によると、浸水した家屋の捜索は10日でほぼ完了、11日以降は水路や水田などに重点を移して不明者捜索を続ける。

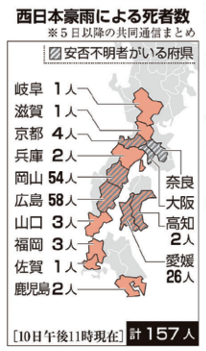
広島県では、府中町で10日午前、流れてきた土砂や流木でせき止められた榎川が氾濫し、同町が周辺の約2万5千人に避難指示を出した。呉市は、市外へつながる鉄道や主要道路の多くが土砂や流木でふさがれ、人や物の往来が寸断された。

総務省消防庁が10日午後に発表した集計で、住宅被害は31道府県で全半壊74棟、床上・床下浸水1万8342棟。厚生労働省によると、正午現在、12府県で計25万4805戸が断水している。

5日以降の共同通信の各府県まとめで、死者は広島58人、岡山54人、愛媛26人、京都4人、山口、福岡各3人、兵庫、高知、鹿児島各2人、岐阜、滋賀、佐賀各1人。

気象庁によると、被災地では最高気温が愛媛県大洲市で34・8度、倉敷市で32・8度、東広島市で31・7度を記録。いずれも今年最高となった。自宅を片付けたり、避難所に身を寄せたりする住民の中には、厳しい暑さに体調不良を訴える人も出始めた。

西日本豪雨による死者数
※5日以降の共同通信まとめ



岡山死者57人 不明18人

西日本豪雨

倉敷・真備浸水4600棟

3440人避難生活 首相被災地視察

西日本豪雨による甚大な被害が出ている岡山県内で11日午後8時までに、新たに3人の遺体が見つかった。県によると、いずれも浸水被害が大きかった倉敷市真備町地区で発見され、県内の死者は計57人、うち同地区では計49人となった。さらに、同地区を中心に安否の分からない人が少なくとも13人いることが新たに判明し、行方不明者は計18人に上っている。自衛隊や警察、消防は12日朝から行方不明者の捜索を再開する。

県災害対策本部によると、遺体で見つかった3人は男性2人（81、90歳）、女性1人（年齢確認中）。新たに分かった行方不明者は真備町地区の住民12人（男性4人、女性8人）と井原市の女性1人。確認できた年齢は60～92歳で、多くは高齢者とみられる。

自衛隊や警察、消防は11日朝から真備町地区で行方不明者の捜索を続行するとともに、発見した遺体を収容した。倉敷市災害対策本部によると、同地区内の被災家屋での捜索は同日で終えたとしている。国土交通省は同地区の宅地、生活道路の浸水はおおむね解消したと発表した。

県災害対策本部は11日のまとめで、詳細な確認が困難になっている真備町地区の住宅被害を初めて計上し、浸水被害は約4600棟とした。県全体の避難所は46カ所と前日から13カ所減ったが、いまだに約3440人が避難生活を余儀なくされている。断水は倉敷、高梁市を中心に約1万6500戸に上り、自衛隊などによる給水支援が続いている。

住宅被害では、全容が把握できていない倉敷市を除き全半壊・一部損壊が計79棟、床上・床下浸水が約9600棟。3757世帯8734人に避難指示が出されている。道路は土砂崩れなどのため126カ所が全面通行止めのまま。冠水のため高梁市などで6日夜から全面通行止めだった国道180号は、11日午後5時に通行可能になった。

11日には安倍晋三首相が岡山県入りし、倉敷市真備町地区の浸水地域などを自衛隊のヘリコプターから視察。避難所2カ所を訪れ、被災者を激励した。

岡山県内市町村別死者数

倉敷市1人▽同市（真備町地区）49人▽笠岡市3人▽総社市3人▽井原市1人

◇

氏名が判明している方々

「ヒルタ工業」（笠岡市）従業員、妹尾基生さん(57)▽同、柚木徹さん(43)▽総社市下倉、亀山将さん(81)▽井原市西江原町、藤井敦子さん(48)

西日本豪雨による大量の被災ごみで道路の半分ほどがふさがれた倉敷市真備町地区。夕方、激しく降った雨で路面は水浸しに。水害から間もない地域で住民らに不安が広がった＝11日午後6時52分、同町箭田

岡山県内の被害

11日午後8時現在
※住宅被害は全容を把握できていない倉敷市などを除く

人的被害	死者	57人
	行方不明	18人
	重傷	2人
	重軽傷不明	4人
	軽傷	9人
住宅被害	全壊	19棟（総社市7、高梁市4、津山市3、新見市3など）
	半壊	17棟（総社市7、玉野市3、井原市2、高梁市2など）
	部分焼	1棟（総社市）
	一部損壊	43棟（総社市18、津山市7、真庭市4、瀬戸内市4、岡山市3など）
	床上浸水	約4,200棟（岡山市約3,260、総社市約580、矢掛町約200など）
	床下浸水	約5,400棟（岡山市約4,370、矢掛町約400、総社市約370など）
避難	避難指示	3,757世帯（8,734人）
	避難所開設	46カ所
水道	断水	約16,500戸（倉敷市8,900、高梁市6,987など）
電気	停電	90棟（倉敷市90）

死者12府県170人超

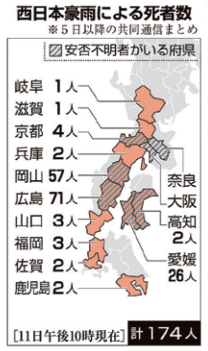
広島71人 激甚災害指定へ

西日本豪雨の被災地では11日、警察や自衛隊などが厳しい暑さの中、土砂災害や浸水被害現場での捜索に全力を挙げた。安否不明者はなお7府県で60人を上回っており、高齢者も目立つ。安倍晋三首相は大規模で深刻な被害を踏まえ、激甚災害に指定する考えを表明した。菅義偉官房長官は記者会見で、死者が計176人に上ったことを明らかにしている。共同通信の各府県まとめで、死者は12府県計174人。

激甚災害に指定されると、自治体が実施する公共土木施設や農地などの復旧事業で、国の補助率が引き上げられる。政府は持ち回り閣議で、自衛隊OBで構成する「即応予備自衛官」を招集する方針を決めた。

広島県では呉市や広島市を中心に、多くの安否不明者がいるが、県は人数のみ明らかにし氏名を公表していない。大量の土砂に阻まれ、捜索自体が難航しているのに加え、遺体が見つかっても身元の特定には時間がかかる。広島市の担当者は「慎重に判断している」と説明する。

5日以降の共同通信のまとめで死者の内訳は広島71人、岡山57人、愛媛26人、京都4人、山口、福岡各3人、兵庫、高知、佐賀、鹿児島各2人、岐阜、滋賀各1人。安否不明者は広島38人、岡山18人、愛媛2人、京都、大阪、奈良、高知各1人。

西日本豪雨による死者数
※5日以降の共同通信まとめ